

# 十字架につけられた人生

ジェイムズ・ジェイコブ・ブラッシュ

## イントロダクション

しるしや不思議や奇跡が未信者を信仰に導くことができると教えたがる人々がいます。

イエス様の時代の過ぎ越しの祭りには、有名なラビたちがやって来て議論を交わしたものです。ある特別な過ぎ越しの祭りの日、誰もが会いたいと願っていたラビがいました。1人の少年のお弁当で数千人に食事をさせ、水の上を歩き、病人を癒し、死人を生き返らせることさえできた人物です。人々はその人物にショーを見せて欲しかったのです。彼らは、「しるしと不思議」の福音を信奉していました。人々はまた、マカベア家がギリシャ人を追い出したように、ローマ人を追い出してくれる人物を求めていました。彼らは「キングダム・ナウ（神の国は今ここに）」という福音を信じていたのです。あなたが詩編113篇から118篇のハレル・ラバー（ハレル詩編）をご存じかどうかわかりませんが、民衆がイエス様にその詩篇を歌った時、「今、私たちに繁栄をお与え下さい」と歌っていたのです。彼らは「繁栄」神学を信じていました。

この人々は、受難のしもべになるようなメシアを望んでいたのではありませんでした。自分たちを金持ちにしてくれるメシアを求めていたのです。

## パン種を取り除く

過ぎ越しの祭りは、パン種を取り除くことから始まります。イエス様は見世物をなさろうとはしませんでした。その代わり、パン種を取り除いたのです。パン種は罪の象徴で、特にプライドという罪を表しています。なぜなら、それは膨らむからです。プライドは、他の種々の罪のベースになっている罪です。例えば、もし食欲の問題を持つ人がいるなら、その根底にプライドという問題があります。もし情欲という問題を抱えているなら、根底にある問題はプライドです。プライドは他の罪の根底に潜んでいる罪です。プライドは偽りの教理とも関係しています。ですからイエス様は、「パリサイ人のパン種に気をつけなさい。（マタイ16:6）」と言われたのです。

サンヘドリンは過ぎ越しで捧げられる羊の検査に責任を負っていました。74種にも及ぶ欠点について調べあげ、もしその羊に一つも欠点を見つけないことができないならば、

その羊を捧げ物として承認しました。しかし、彼らはトーラーを曲解し、レビ人の役割を商売に変えていました。宗教リーダーたちは、自分の権力拡大のために神の御言葉をねじ曲げ、神の民を食い物にし、小羊の血で暴利をむさぼっていたのです。

ローマ人を取り除く代わりに、神様は彼らを取り除きました。神様は救われていない人々が人生で犯す罪よりも、私や皆さんのように救われた人が犯す罪に、より大きな関心を持っておられます。

イエス様は神殿から両替人を追い出しました。裁きは神の家から始まるからです。神殿をきよめた後、民衆が障害を持つ人々をイエス様のところに連れて来たので、イエス様は癒されました。これらのしるしは伴うものです（マルコ 16:20）。イエス様は、しるしや不思議や奇跡が、悔い改め以上に誇張されることをお許しになりませんでした。

同様のことはハヌカ（宮聖め）、ユダヤ人の奇跡の祭りの日にも起こりました。民衆がイエス様を石打にしようとした時、主は言われました。「わたしは、父から出た多くの良いわざを、あなたがたに示しました。そのうちのどのわざのために、わたしを石打にしようとするのですか？（ヨハネ 10:32）」

もし、しるしと不思議が本当にリバイバルの鍵であるなら、どうして民衆はその数日後、「十字架につけろ」と叫んだのでしょうか。彼らは、イエス様がラザロを死から生き返らせ、足なえや盲人を癒されたと知っていたのです。繁栄神学の説教者は、自分あらゆる奇跡を行うと主張し、長年ご活躍ですが、リバイバルは来たためしがありません。むしろ、彼らのスキャンダルによって福音が貶められてきたのです。

## 疑り深いトマス

十二弟子のひとりで、デドモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたときに、彼らと一っしょにいなかった。それで、ほかの弟子たちが彼に「私たちは主を見た」と言った。しかし、トマスは彼らに「私は、その手に釘の跡を見、私の指を釘のところに差し入れ、また私の手をそのわきに差し入れてみなければ、決して信じません」と言った。八日後に、弟子たちはまた室内におり、トマスも彼らと一っしょにいた。戸が閉じられていたが、イエスが来て、彼らの中に立って「平安があなたがたにあるように」と言われた。

それからトマスに言われた。「あなたの指をここに付けて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしのわきに差し入れなさい。信じない者にならないで、信じる者にな

りなさい。」トマスは答えてイエスに言った。「私の主。私の神。」

イエスは彼に言われた。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。」(ヨハネの福音書 20:24~29)

トマスはあらゆる人間の疑いを表しています。イエス様であることは、パンを裂いた時にはっきりわかりました。——御言葉のパンです。イエス様は復活された時、ご自分が霊ではないことを示されたいと思い、実際に何かを食べて見せました。

イエス様はラザロを墓から生き返らせた後、ラザロと一緒に食事されたことが目撃されています(ヨハネ 12:1~2)。少女を死から生き返らせた時は、何か食べさせるように言われました(マルコ 5:43)。霊の身体は食べる必要がありませんから、聖書には、誰かが生き返った後、それが**肉体的に**生き返ったことを示す目的で、その人が何か食べたことが記されています。イエス様も、肉体をもって復活したことが確認されました。初めは見分けられませんでしたでしたが、パンを裂いた時に主であることが分かったのです。イエス様は壁を通り抜けるようなことができました。その出来事は、私たちの将来についても教えています。イエス様に起こった事は私たちにも起こるのです。

しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。(コリント人への手紙 I 15:20)

過越しの祭りの直後に来る週の初めの日の夜明け、大祭司がキデロンの谷に出て行きます。そして捧げ物にする大麦の初穂を刈り取り、東門を通って神殿に持ち帰らなければなりません。4つの福音書はすべて、イエス様が日の出と同時に、大祭司が初穂を持ち帰る、ちょうどその時刻に甦ったと記しています。イエス様は復活の初穂です。私たちの復活もイエス様の復活と同じ出来事です。ただし、イエス様が第1号です。ですから、主の復活は私たちの復活についても教えています。モーセ、イエス様、エリヤは一緒に姿が変わりました。エリヤは死んだことのない人(エリヤは携挙されました)、モーセは死んだ人を表し、そしてイエス様です。

この事実が、異教のローマ帝国をひっくり返しました。その後、法王制ローマが異教のローマ帝国より少しもましにならなかったのは歴史的な悲劇ですが、それにしても、初期のクリスチャンは異教ローマ帝国の力を転覆させたのです。テルトゥリアンが「殉教者の血は教会の種である」と書いています。この人々は死に至るまで、自分のいのちを惜しみませんでした。パウロはローマ人への手紙に詩編 44 編から引用しています。「あなたのために、私たちは一日中、殺されています。」

## 使徒パウロ

パウロが使徒として油注がれていたと示す証拠は何でしょうか？ 彼の建て上げた全ての教会、救いに導いた全ての人々が証拠でしょうか？ 彼が立ち上がって高名なラビたちと議論を交わし、言い負かしたという事実が証拠でしょうか？ いいえ、そのようなことは証拠ではありません。様々な奇蹟、死人を蘇らせたという奇跡ですら（使徒 20 章）証拠ではありません。そのようなことのどれも、油注がれていることの証拠ではありません。パウロが油注がれていたという証拠はこういうことです。「私は、この身に、イエスの焼き印を帯びています。（ガラテヤ 6:17）」パウロはギリシャ語の「スティグマタ・Stigmata」という言葉を使っていますが、この単語から英語の「Stigmatize・汚名を着せる」という言葉ができました。パウロはキリストのゆえに、肉にあって現実に呪われることさえ良しとしたのです。

## ルーマニア

私の妻はルーマニア系ユダヤ人です。妻の両親はホロコーストの生存者です。ナチス政権のもとに苦しめられ、辛うじていのちを取りとめました。ほとんどの親族は殺されました。その後、彼らは共産主義の下で苦しめられました。妻は「Refusnik・移民を許されないユダヤ人」として成長し、11歳の時にイスラエルに移民しました。

チャウシェスクは恐ろしい凶悪な男でしたが、ルーマニアの教会は成長しました。ジブシーや、以前は変わることを出来なかった人々の中に、リバイバルが起こりました。大勢のユダヤ人が救われました。リチャード・ウルムブランドさん（1909～2001）とサビナさん夫妻（「殉教者の声」ミニストリー）も、そのようなユダヤ人共同体から出て来ました。私たちがイスラエルで知り合った信者の非常に多くがルーマニア出身のユダヤ人です。何がそのような国の教会を成長させるのでしょうか？ 人々は何を見たので信仰を持つようになったのでしょうか？ 十字架につけられ、復活した肉体を見たのです。

私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。（ガラテヤ 2:20）

彼らは御言葉を意味も分からず唱えていたのではありませんでした。チャウシェスク独裁政権を転覆させたルーマニア革命は、福音的クリスチャンが最も多く集まっていた場所で始まりました。

私は、復活の力によって生きている多くのクリスチャンに出会いました。また、復活の力で生きている多くのメシアニック・ジューにも出会ってきました。私はイスラエルの数十年前のことを覚えています。まだ鉄のカーテンが閉じられており、ロシアを脱出してイスラエルに来ることの出来たユダヤ人はほとんどいませんでした。わずかな人々が移民することができ、その中には、ペンテコステやバプテストの地下教会で救われた信者がいました。

### 「ジーザス・ラブズ・ユー」

私は、妻と5人の子どもを持つ一人の兄弟を覚えています。地下教会の1つで何かのリーダーをしていた人ですが、長い間KGBに囚人とされていました。家族は、時に、彼が生きているのか死んでいるのかさえわかりませんでした。KGBは繰り返し彼を殴り、拷問しましたが、彼は信仰を捨てようとはしませんでした。彼は大量の向精神薬を静脈内注射され、繰り返し電気ショックを与えられました。まだ中年の男性でしたが、そのような仕打ちのため、非常に年老いて見えました。

彼は今、イスラエルにいます。ユダヤ人です。妻が彼の手を引いて連れて歩きます。彼はたった一つの文しか語るすることができません。いつも口にするのはこの言葉だけです。「ジーザス・ラブズ・ユー。」

KGBは彼を電気ショックで拷問し、向精神薬を打ち、メシア・イエスに対する信仰を破壊しようとしてきました。けれども、信仰だけは破壊することが出来なかったのです。彼らはこの世での彼の人生を破壊し、彼の心と健康を破壊しました。全てを破壊しましたが、イエスにある信仰は破壊できませんでした。この男性の身体は十字架に付けられ、復活の力によって歩き、生活しているのです。

### ローズ・ウォーマーさん

妻と私は、ハンガリー出身のユダヤ人女性、ユダヤ人信者2世のローズ・ウォーマーさんの友人であることをとても誇りに思います。

第2次世界大戦中、ローズにはハンガリーから脱出する機会がありました。しかし主が直接彼女に、「いや。わたしはあなたにゲシュタポに行き、ユダヤ人であることを名乗り出てほしい」と語られました。彼女はそうしました。ごくわずかのユダヤ人やジプ

シーがアウシュビッツを生き延びました。彼女もそのわずかな生き残りの一人です。アウシュビッツで彼女に起こった事は言葉にできないようなことです。毎日何千人ものユダヤ人女性が連れて行かれ、裸にされ、髪の毛を剃られ、歯を抜かれ、毒ガスを浴びせられ、焼却炉に押し込められました。

彼女はそのような所に自ら志願したのです。彼女が主と共に出向いた時、彼女を待つ多くの人々がいました。大勢のユダヤ人女性がガス室で殺されましたが、死ぬ前に、メシア・イエシュアを信じるユダヤ人に出会い、福音を聞いたのです。ローズ・ウォーマーさんは十字架の人生を歩みました。この女性の身体は十字架に付けられ、メシア・イエシュアの復活の力で生きていたのです。

私はそのような人々を知っています。多くの人々が信仰ゆえに苦しめられました。多くであって、全員ではありませんが。私はそのような多くのクリスチャン、信仰深い人々を知っています。たいていその人々は、私のように大口を叩く男性ではなく、教会の階段掃除をしたり、断食して毎日祈ったりする小さな老女です。大体そういう人々です。私は長年にわたり、そのような多くの人々と知り合ってきました。この人々はひととき目立つ人々です。私は、この人、あの人と指摘することができます。あなたにもわかることでしょう。ひとりひとりのクリスチャンを見る事と、十字架に付けられた身体を見る事には大きな違いがあります。

私たちはキリストの身体です。私たちが十字架に付いて復活した身体であると世の人々が理解するなら、世は私たちのメッセージに耳を傾け、応答することでしょう。

## リバイバル？

イエスの死は私たちの死です。イエスの復活は私たちの復活です。この世は私たちと私たちのメッセージに懐疑的で、ますます疑い深くなりつつあります。解決策は何でしょうか？ 祈ること、もちろんです。福音を語ること、当然です！しかし、この国を本当のリバイバルの道に引き戻すことの出来るものはたった一つです。この頑な国民に、イエス様の教えについて考え直させることができるものは一つだけです。それは、アメリカから、大きな指輪をはめ、素晴らしいリムジンを持つ自信たっぷりの詐欺師がやって来て、神はあなたがたがりッチになることを望んでおられる、と言うようなことではありません。それはトロントの教会で狂ったように振る舞う人々ではありません。そんな奇怪な行動は人々を信仰から妨げるだけです。人々に信じさせることができるのは、彼らの要求に答えることのできるものを持っている時だけです。

「十字架に付いて復活した身体を見たいものだ。見せてくれ。」

パウロは言うことができたでしょう。「ここにいる！私を見てくれ！」

ローズ・ウォーマーさんも言うでしょう。「私を見て！」

リチャード・ウルムブランドも言うでしょう。「これを見てくれ！」

私たちの一人一人が立ち上がって「ここにいます！私を見て下さい！」と言う所に、十字架につけられた身体が見えるのです。

## イエスを見せてくれ

リチャード・ウルムブランドはユダヤ人信者です。私の妻の友人で、2人はルーマニア語で話します。彼は、あるルーマニアの農民の話をしてくれました。救われ、信仰ゆえに投獄され、共産党から拷問を受けた農民の話です。

ブカレストの科学アカデミーの科学者も投獄されていました。彼は共産主義者ではありませんでした。彼は神を信じない科学者でしたが、共産主義者ではありませんでした。それで投獄され、拷問されました。40人位が生活する小さな部屋がありました。誰もが餓死する寸前でふらふらしており、また何度も殴られていました。ルーマニア人の農夫は、教養のある人物ではありませんでしたが、他の人の間を回って、自分のように死にかけている人々に証していました。ウルムブランドはそこにいました。科学者は特別な知識人だったので、その農夫を馬鹿にし始め、こう言いました。

「お前が幸せなはずがあるか！こんな状態で、どうして喜びがあると言えるんだ？お前の家族が殺されたかどうか分からないのだぞ。」  
毎日、遺体が2、3体運び出されていました。そして誰もが、次は自分の番かもしれないと考えていました。

「お前は何が嬉しいんだ？」

農夫は言いました。「もう何度も言ったさ。イエス様のおかげで嬉しいんだよ。」

エレミヤを覚えていますか？ エレミヤには喜びがありました。お祭りの輪には加われませんでした。それでも喜びがありました。

科学者は言いました。

「イエスだって！ イエスのおかげで嬉しいんだと！ イエスが見えるのか？」

「ああ、毎日会っているさ。」と農夫は答えました。

「イエスに話しかけるのか？」

「ああ、毎日イエス様に話しかける。」

「イエスはお前に話しかけてくれるか？」

「ああ、毎日話しかけて下さる。」

「イエスは何をしてくれる？ お前に微笑みかけてくれるとでも言うのか？」

「ああ、イエス様は微笑んでくださる。」

「どんな顔で微笑むのか見せてみろ。」

農夫は言いました。「こんなふうにし。」

するとシェキナーの栄光が農夫の顔を覆いました。

科学者は床に倒れ、拳を床にがんと打ち付けながら言いました。

「お前は本当にイエス・キリストを見ていたのか！」そして自分も信者になりました。

## ラオデキア

私たちはラオデキアの時代に生きています（黙示録 3:14~22）。高ぶり、唯物論の生ぬるい教会で、自分の本当の状態に気が付いていません。

ラオデキアの1番の問題は、自分がラオデキアであると知らないことです。生ぬるいことに気が付きません。物質的、経済的に豊かなので、霊的にも豊かだと考えています。実際はそんなことはないのですが。けれどもラオデキアにも忠実な残りの者がいます。イエス様は言われました。

**「わたしは、愛する者をしかったり、懲らしめたりする。だから、熱心になって、悔い改めなさい。（黙示録 3:19）」**

私は自分の悪いところをイエス様に正していただきたいです。主が来られる時、準備を整えていたいからです。



**ここにいます！**

トロントはリバイバルをもたらしません。カンザス・シティーもリバイバルを起こせませんでした。ジム・チャレンジ (Jim Challenge) もリバイバルをもたらすことはできませんでした。「収穫の10年」もリバイバルをもたらせませんでした。そんなガラクタはどれもリバイバルをもたらしませんでした。

人々はもう信じていません。あまりに懐疑的になってしまいました。本当のことを言いますが、今日キリスト教の名称で起こっている事を見ても、私はそれを非難しません。もし私が救われていなければ、ひどく疑い深くなっていることでしょう。

「見せて下さい。見たいものだ。見せてくれ。見たら信じるから。十字架に付けられて復活した身体を見せてくれ。そうしたら信じるから。」

彼らが信じるのは、「ここにいます！私を見て下さい」と私たちが答える時なのです。